



特集

100年ぶりのパリ五輪開催 & STAMP-SHOW2024に寄せて

100年前のパリと現在のフランス切手

今夏100年ぶりにパリで開催されるオリンピックにちなみ、STAMP-SHOW2024では企画展示「100年前のパリ」が展覧されます。本特集では1924年のパリ大会関連郵趣品と各種の絵葉書で「100年前のパリ」の魅力をお伝えし、合わせて現在のフランス切手をご紹介します。(編)

▲大会記念絵葉書8種セット(右↓下)の紙製ケース(部分)。

100年前のパリ五輪大会

文・犬飼英明



①フランス発行の記念切手4種(1924)。図案は10C：勝利の競技者と競技場、25C：勝利の女神像を手に載せた女性とパリの風景、30C：古代クロトンのミロン像、50C：勝利した選手。



Monsieur Claude ROBERT
Instituteur
55 Bd Saint Martin,
PARIS

②25C切手無目打。
③記念切手4種と公式記念シール2種貼の実通カバー(コロンブ選手村局消印付き)。[55%]

フランス発行の大会記念切手



新型コロナに翻弄され、五輪史上初の延期・無観客開催となった東京2020大会からもうすぐ3年…2024パリ大会が間もなく開催されます。大会準備や代表選手選考も進み、五輪ムードが高まってきましたが、今からちょうど100年前にもパリでオリンピックが開催されていました。

1. 1924年大会は2度目のパリ開催

そのパリ大会、今年には実に3度目の開催になります。1度目は近代五輪が初めてアテネで開かれた4年後の1900年、パリ万博の付属大会としてクーベルタン男爵の母国で開催されました。当時

は五輪の黎明期で、今日のように大規模で世界的なイベントには程遠く、会期が5カ月に及ぶ中、優勝メダルは陸上競技のみで選手の手元に渡るのに2年もかかるなど大会運営は混乱しました。郵趣的には記念切手も消印もなく、万博の記念消印が僅かに使用されただけでした(4頁コラム参照)。

果たしてその24年後、第一次世界大戦の混乱を乗り越え、世界中から44カ国の選手2,972名が参加して2度目のパリ大会が第8回オリンピックとして開かれたのです。この時代は「狂騒の1920年代」と言われ、世界一と称賛された芸術と

■犬飼英明(P49178)：7歳だった1964年10月10日に初めて東京五輪記念切手を購入。帰宅して白黒テレビの前に正座して見た開

④大会組織委員会公式封筒の実通便。[50%]

⑤30C記念切手と同図案の公式記念葉書。



Monsieur PORTIN
Sénateur
58 Rue d'Assas
PARIS 6^e

大会記念絵葉書8種セット

⑥大会競技を描く料額印面付き記念絵葉書8種セット(紙製ケース入り)より。やり投、マラソン、レスリング、テニス。[40%]



表面

文化がパリで花開いていましたが、5～7月の会期中、パリの街は五輪の興奮に包まれました。パリ北西部近郊のコロンブには4万5千人収容のメインスタジアムが建設され、周辺には五輪史上初の選手村も開設され、国を挙げての大会だったのです。19競技126種目のうちアメリカ選手団が金メダル45個を獲得して大活躍。フィンランドのヌルミ選手が中長距離5種目で優勝して話題となった陸上競技は後年、映画『炎のランナー』で英国選手たちの活躍も描かれました。また、サッカーでは当時無名のウルグアイ、ポロでもアルゼンチンが優勝し、南米旋風を巻き起こしました。日本も19名の選手を派遣し、レスリングの内藤克俊がフェザー級で日本の五輪史上初の銅メダルを獲得した大会として知られています。

2. フランスの多様な郵趣マテリアル

大会を記念してフランスからは4種の記念切手(①)が発行されました。アール・ヌーヴォーを代表するフランス人彫刻家E・ベッカーがデザインした切手で、この風格あるセットには無目打(②)やプルーフ、エッセイなども存在し、五輪コレクター垂涎的となっています。ここでは4種セットと公式記念シール2種を貼り、コロンブ選手村局の記念消印が押された実通カバー(③)と大会組織委員会公式封筒の実通便(④)をお目かけます。また、五輪では初めての30C記念葉書(⑤)も30C切手と同図案で発行されました。特筆すべきは料

会式中継は今も目に浮かぶようです。以来、60年目に突入した五輪切手収集は果てしなく続きます。

※2〜5頁、特記外、切手原寸、カバー類60%縮小。

⑦大会を宣伝告知する機械印がパリ市内を中心に3種使用された。右はパリ14区オルレアン通り局(横線5本/1924.6.3)、下はパリ・サン＝ラザール駅局(1924.7.17)、その下はパリ24区クレリー通り局(横線7本/1924.1.3)。



⑧冬季大会公式記念封筒実郵便(「第8回オリンピック」の表記あり)。1923年12月22日 シャモニー・モンブランの冬季スポーツ大会記念機械印付き。

から7月までを冬季～夏季トータルしての第8回五輪大会と考えていたようです。

3. フランス以外でも記念切手を発行

この当時は、昨今の世界的な五輪記念切手乱発とは無縁の時代でしたが、フランスの委任統治領だったレバノン(⑨)とシリア(⑩)からもフランス切手に国名と新額面をフランス語で加刷して各4種が発行されました。それぞれ大文字での国名が加刷されていますが、少し遅れて小文字を含めて表記し、アラビア語も加えた加刷切手も追加

発行されています。もう1カ国、ウルクアイもサッカーチームが五輪史上初の金メダルを獲得した栄誉を記念して3種の優勝記念切手を発行しました(⑪)。エーゲ海のサモトラケ島で出土した勝利

を宣伝告知する機械印はローラー印を含めて3種(⑦)がパリ市内各局を中心に使用され、実通カバが多く残されています。

余談ですが、この1924年1月から2月にかけて同じフランス東部のシャモニー・モンブランで第1回冬季五輪が開かれました。開催時にはパリ五輪に先駆けての冬季スポーツ大会という位置付けでしたが、翌年のオリンピック(五輪)会議で正式に冬季五輪として認められた経緯があります。この冬季大会公式記念封筒(⑧)には「第8回オリンピック」と印刷されており、フランスは1924年の1月

コ・ラ・ム

最初のパリ五輪の郵便品は…?

フランス最初の五輪となる第2回大会は、同国での万国博覧会の付属大会として1900年にパリで開催され、欧米の13カ国から19競技95種目に1,225名が参加しました。

黎明期の大会運営は混乱し、記念切手・記念消印はおろか、公式シールさえ作成されず、万博の記念消印のみがパリで使用され、当時の記録として残されています。



第2回パリ大会の記録となる、パリ万博の記念機械印付き実郵便。1900年11月1日 パリ万博アメリカ局→米国コネチカット州ノーウィッチ宛。[45%]



レバノン

⑨フランス領だったレバノン発行の記念加刷切手より、1次加刷(上/国名が大文字)と2次加刷(下/小文字・アラビア語併記)。各4種のうち2種。[85%]

シリア

⑩フランス領だったシリア発行の記念加刷切手より、1次加刷(上/国名が大文字)と2次加刷(下/小文字・アラビア語併記)。各4種のうち2種。[85%]



⑪ウルクアイ発行のサッカー優勝記念切手3種セット。[90%]

※背景はウルクアイのサッカー優勝チームの絵葉書(リプリント)より。

の女神ニケ像を描いたこの3種セットは初の五輪サッカー切手であると共に、初めてサッカーを題材とした切手として知られています。

フランスはその後1968年のグルノーブルと1992年のアルベールビルで冬季大会を開催し、今年のパリ大会は通算6度目のオリンピックになります。フランス郵政公社「La Poste」はこれまで2017年に招致決定記念切手1種(2017年9月号51

参照)と昨年11月に公式マスコットを描くPスタンプ4面シート(「世界新切手ニュース」では取扱なし)を発行していますが、今後も開催に向けて記念切手の発行が続きます。

1924年から100年を経た今年、五輪を通じて世界の人々の友好と平和を願ったクーベルタン男爵の母国フランスでの6度目のオリンピック開催に世界の注目が集まっています。

ズームアップ！ 100年前の粋なデザイン

「公式ポスター」の図案に基づく公式シール(右)と絵葉書(下)。



[60%]

このコーナーでは絵葉書やポスターなど、魅力あふれる大会関連品を紹介します。

パリ大会より公式ポスターが作成され、大会告知や宣伝に大きな役割を果たしました。150点もの候補案から選ばれたのは、連刷の公式シール(上左)にも採用された2点です。

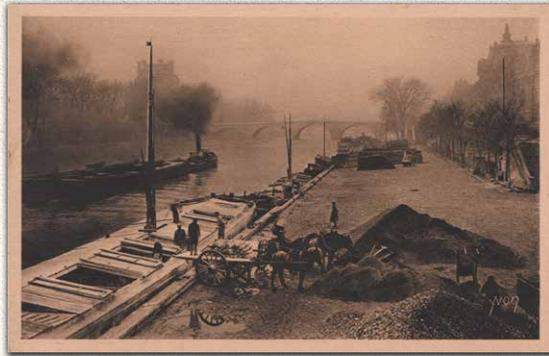
パリの街並みと地球を背景にやり投選手を描いたオルシェの作品は躍動的で、五輪の全世界への拡がりをイメージさせます。勝利の象徴シュロの葉を前に手を挙げて挨拶する選手たちを描いたジャン・ドロワの作品と共に絵葉書やプログラムの表紙などにも使われ、世界中に当時のフランスデザインの魅力を伝えることになりました。



他にも大会競技を描く記念絵葉書が9種製作された。上はその中より、円盤投とラグビー。[35%]

絵葉書に見る 100年前のパリ

文・生田 誠



パリ名所絵葉書／セーヌ川のオルセー河岸



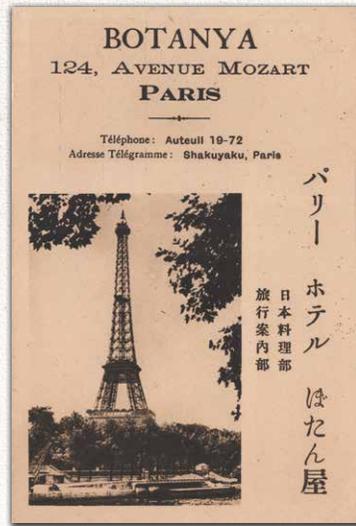
パリ名所絵葉書／凱旋門



パリ名所絵葉書／シャンゼリゼ通り



エッフェル塔絵葉書／1920年(大正9)の日本宛



エッフェル塔絵葉書／パリの日本人経営ホテル、ぼたん屋



40%



30%

エッフェル塔絵葉書
1900年(明治33)の日
本宛(上・絵面、下・宛名面)

示に先立ち、当時のパリの絵葉書をご紹介します。

1. パリ名所を訪ねて

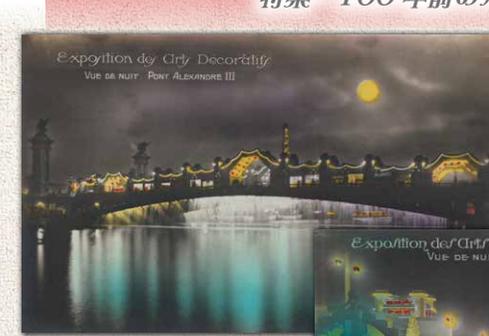
まずは、パリを代表する観光名所の当時の絵葉書から。数えきれないほどあるパリ名所ですが、はずせないのが市内を流れるセーヌ川。そして、東西を貫くメインストリート、シャンゼリゼ通りでしょうか。誌面で紹介するには限りがありますから、もう1枚はシャルル・ド・ゴール広場の凱旋門を選びました。エトワール凱旋門は19世紀初頭、ナポレオンの時代に建設が始まっています。

STAMP-SHOWの企画展示が「100年前のパリ」になったことを受けて、筆者のコレクションの中から、パリの絵葉書を展示することになりました。100年前のフランス(欧州)は、戦間期(相対的安定期)といわれる時代で、平和の中で大衆文化が花開いた時代でした。パリでは、1924年に「パリ五輪1924」、翌年の1925年には「アールデコ(装飾)博覧会」と呼ばれる万国博覧会が開催されています。この時期、こうしたイベントを観るために多くの日本人がパリの街を訪れました。会場での展



アールデコ博覧会の絵葉書
アレキサンダー三世橋の夜景

アールデコ博覧会の絵葉書
エッフェル塔の夜景



45%

アールデコ博覧会の絵葉書
会場の夜景



45%



体験されたパリ絵葉書／エトワール広場の路面鉄道の列



体験されたパリ絵葉書／地下鉄工事



体験されたパリ絵葉書／レ・アールのスープ売り

2. エッフェル塔と日本人

そして、忘れてはならないのはエッフェル塔。会場では、この時期に日本人が訪れた塔の印象などを記した実通の絵葉書を展示する予定です。ご存じのように、エッフェル塔はフランス革命100周年を記念して1889年に開催された、万国博覧会の最大のモニュメントとして建てられました。そして、1900年の次のパリ万博では、多くの日本人がこの街を訪ねています。その中には、夏目漱石や川上音二郎、浅井 忠、竹内栖鳳らの著名

人がいました。当時の日本人渡航者たちが万博とパリの街に魅了されたことは間違いありません。

3. アールデコ博覧会

展示の3つ目のテーマは、先述の「アールデコ博覧会」を選びました。約100年前のこの博覧会は、会場、パビリオンだけではなく、パリの街自体が美しく飾られる魅力的なイベントとなりました。新たな装飾様式である「アールデコ」という言葉は、このときに生まれたといわれています。セーヌ河やエッフェル塔を彩る夜景は、いま見てもわくわくするようなものです。

4. 過去のパリ(PARIS VÉCU)

最後(4番目)のテーマは、「過去のパリ」にしました。筆者が収集しているパリの絵葉書の中には、「PARIS VÉCU(体験されたパリ)」というものがあります。これは、前世紀(19世紀)のパリの風景や風俗を写したシリーズで、パリの街や人々の多種多様な側面が見られるものです。そのユニークさ、面白さは、なかなか文章で説明できるものではないので、ぜひ会場で見たいと思います。

※6〜7頁、特記外、絵葉書50%縮小。

■生田 誠(P193334)：地域史・絵葉書研究家。コロナ以来、昨年は久しぶりにパリ、ロンドンを訪れました。今年もSTAMP-SHOWの後、再訪したいと思っています。